

No.	報告受領日	一般名	患者 性別	年 代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
113	2008/2/28	人血小板濃厚液	女	50	血液腫瘍	細菌感染	08/02	-	BT 36.5℃ →38.4℃ 院内にて患者 血液培養実施、 陰性。	非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査： 陰性。血漿タンパク質欠損検査： 欠損なし。 使用済みバッグによる細菌培養 試験を実施、陰性。				
114	2008/3/4	人血小板濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	血液疾患等	細菌感染	08/02	-	BT 36.2℃ →39.3℃ 患者静脈血液 培養は陰性。 糞便培養により 緑膿菌、カン ジタ菌検出。	非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査： 陰性。血漿タンパク質欠損検査： 欠損なし。 投与中止の当該製剤(1本)で細菌 培養試験を実施、陰性。				
115	2008/3/4	人血小板濃厚液(放射線照射)	女	60	血液疾患	細菌感染	08/02	-	BT 36.6℃ →37.9℃ 院内にて患者 血液培養、 Acinetobacter calcoaceticus 検出。	非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査： 陰性。血漿タンパク質欠損検査： 欠損なし。 投与中止の当該製剤(1本)で細菌 培養試験を実施、陰性。				調査をうけて、担当医より「副作用・ 感染症と輸血との因果関係なしと考 える」との見解が得られた。
116	2008/3/4	人血小板濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	血液腫瘍	細菌感染	08/02	-	BT 37℃ →38.2℃ 院内にて患者 血液培養、 Staphylococcus epidermidis 同定。	非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査： 陰性。血漿タンパク質欠損検査： 欠損なし。 投与中止の当該製剤(1本)で細菌 培養試験を実施、陰性。				担当医より「コンタミネーションの可能 性」があるとのコメント。
117	2008/3/6	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	10	血液腫瘍	細菌感染	08/02	-	BT40.2℃ 院内にて患者 血液培養実施、 陰性。	非溶血性副作用関連検査：調査 なし。 使用済みバッグによる細菌培養 試験を実施、陰性。				
118	2008/3/6	人血小板濃厚液-LR	女	80	循環器疾患	C型肝炎	07/03	HCV-Ab(-) (04/12) HCV-Ab(-) (05/01) HCV-Ab(-) (07/03)	HCV-Ab(+) (07/12) HCV-RNA(+) (07/12) HCV-Ab(+) (08/02) HCVコアAg(-) (08/02)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (08/02)	陽性(輸血 後)	保管検体1本 HCV-RNA(-)		